山梨県　韮崎市

SHIMOKIDO No.2 SITE

下木戸第2遺跡

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

山梨県　韮崎市

SHIMOKIDO No.2 SITE

下木戸第2遺跡

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

序　　文

韮崎市を貫流する塩川の右岸は、古くから「藤井平」と呼ばれ、肥沃で歴史のある土地柄となっています。この「藤井平」に広がる宮ノ前遺跡、後田遺跡、上横屋遺跡、立石遺跡や金山遺跡などをはじめとする数多くの埋蔵文化財を調査した結果、「藤井平」という肥沃な土地に昔から多くの人々が工夫をこらしながら生活していたことが明らかになってきました。

今回ここに報告する「下木戸第２遺跡」は韮崎市中田町中條字下木戸地内に集合住宅建設に伴う事前調査の結果判明した遺跡であります。

下木戸第2遺跡からは平安時代の人々の住まいや生活道具が発見され、当時の生活を知る手がかりを提供しました。また、盛り土保存によって、下木戸第２遺跡の多くは保存することができ、文化財保護の上で意義深いことであります。

最後になりましたが、遺跡発掘調査並びに報告書作成に関係して、多大なるご理解とご協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝申し上げる次第であります。

平成11年９月30日

韮崎市遺跡調査会

会　長　　小　野　修　一

韮崎市教育委員会

教育長　　輿　石　　薫

例　　言

1　本書は、山梨県韮崎市中田町中條1051に所在した下木戸第２遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、集合住宅建設に伴い行われた。

3　発掘調査は、韮崎市から委託を受け韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は以下に示すとおりである。

4　整理作業および報告書作成にかかわる業務は韮崎市遺跡調査会が実施した。調査担当・調査員以外の整理業務参加者は、阿部由美子・岩下雅美・上野理江である。

5　本報告書の執筆・編集は閏間俊明がおこなった。

6　発掘調査、整理によって出土した遺物ならびに作成した図面等の資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

7　本報告書作成の際に様々な文献を使用したが、紙面の関係上省略させていただいたことをご了承願いたい。

8　発掘調査および報告書作成にあたっては多くの方々からご指導、ご鞭撻をいただいた。一々ご芳名を挙げることは避けるが厚く御礼を申し上げる次第である。

調　査　組　織

1　調査主体　韮崎市遺跡調査会

2　調査担当　閏間俊明（韮崎市教育委員会社会教育課）

　調査員　　秋山圭子（試掘）（現明野村教育委員会）

3　調査参加者　阿部由美子・岩下雅美・上野理江

4　事務局（韮崎市教育委員会社会教育課）

　教育長・輿石薫、課長・山本雄次、課長補佐・下村貞俊、係長・藤巻明雄、山下孝司、斉藤進

凡　　例

1　遺構・遺物の縮尺は各図毎に記した。

2　遺物実測図には遺構単位で番号を付した。本文および観察表の番号はこの番号による。

3　層位については、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」を使用した。

4　地図には、国土地理院発行の１／２５０００の地形図を部分使用した。

目　　次

序　文

例　言

凡　例

目　次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯と概要 …… 1
　第１節 発掘調査にいたる経緯 …… 1
　第２節 発掘調査の概要 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 …… 1

第Ⅲ章　遺構と遺物 …… 1

ま　と　め …… 5
図　版

挿　図　目　次

第１図　調査位置図 …… 2
第２図　下木戸第２遺跡と周辺の遺跡 …… 2
第３図　１・２・３号竪穴住居跡平・断面図 …… 3
第４図　４号竪穴住居跡平・断面図 …… 4
第５図　２・４号竪穴住居跡出土遺物 …… 4

写　真　図　版

図版１　調査風景・茅ヶ岳を望む
図版２　２号住全景・４号住断面図・４号住全景

第Ⅰ章　発掘調査の経緯と概要

第１節 発掘調査にいたる経緯

平成10年12月に韮崎市在住の戸嶋栄蔵氏より集合住宅建設に伴い埋蔵文化財の有無確認依頼が出されたことを受けて、韮崎市教育委員会では現地踏査と埋蔵文化財有無確認の調査を実施した。調査は建設予定地内において任意に２m四方の埋蔵文化財有無確認坑を設定し、重機により確認作業を行った。その結果、遺構・遺物を確認したことから、遺跡の存在が明らかとなったため、韮崎市教育委員会、戸嶋氏とｴﾑﾃﾞｨｱｲ甲府支店とで協議を行い、建設に伴い掘削を免れ得ない部分に関して緊急の埋蔵文化財発掘調査を実施することとした。また、建設予定地内で調査範囲以外の部分に関しては、三者で埋蔵文化財保存の協定書を締結した。

第２節 発掘調査の概要

発掘調査は平成11年４月12日および13日におこなった。

調査地は水田であり、重機により耕作土を取り除き、事前に行った埋蔵文化財有無確認調査結果に基づき、水田床土の下の黒褐色土層で遺構の確認作業をおこなった。

各遺構は1/20で測量を行い、詳細図を作成し、全体図は1/100で作成した。

擁壁および浄化槽設定範囲のみということもあり、調査面積は約25㎡と狭いものであったが、平安時代の竪穴住居跡４軒およびそれらに伴う遺物が出土した。

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

下木戸第２遺跡は山梨県韮崎市中田町中條字下木戸1051外に所在する遺跡である。下木戸第２遺跡の所在する藤井平は、塩川と七里岩に挟まれた低段丘である。この地帯は黒沢川や藤井堰により水利が良く、肥沃な水田地帯が広がっている。当地域は一見平坦に見えるが、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が点在している。圃場整備を終了した今でも、藤井平にはこのような微高地上に遺跡が点在している。

下木戸第２遺跡の周辺には、下木戸遺跡、立石遺跡、宮ノ前遺跡など数多くの遺跡の所在が確認されている。その中でも塩川に最も近く、当時人々の河川との関り方を考えさせられる遺跡であることが指摘できよう。

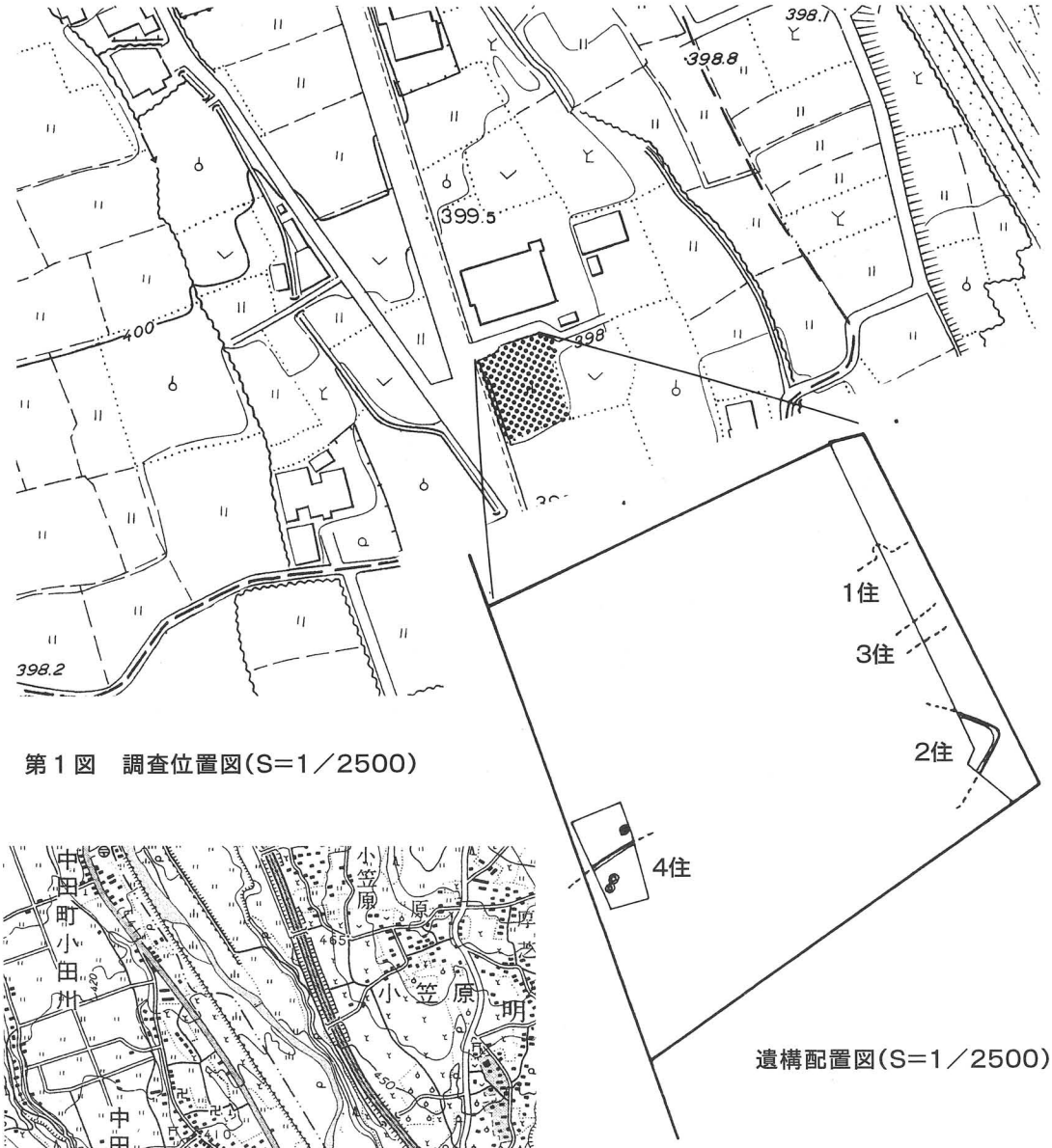
第Ⅲ章　遺　構　と　遺　物

１号竪穴住居跡

調査区東側の擁壁部分で断面により確認したものである。１辺約3.8mの方形を呈するものと考えられる。北壁にカマドが構築されている。遺物は出土していない。

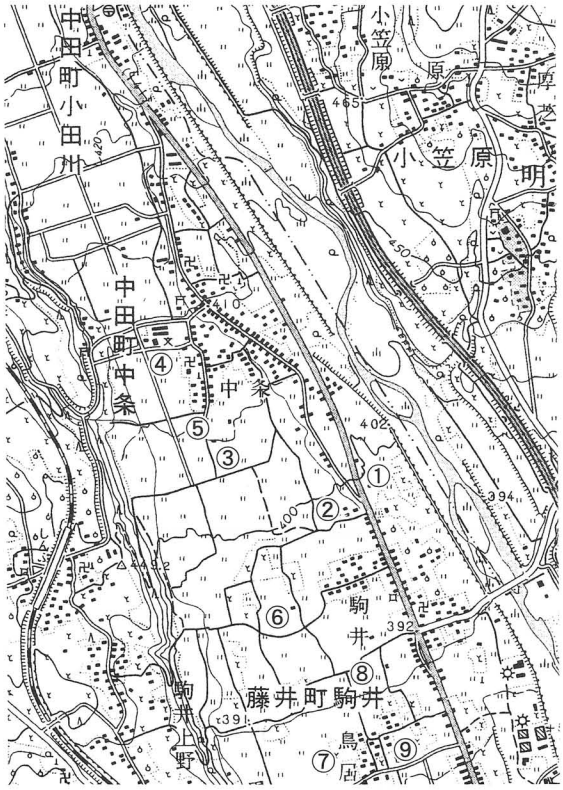
２号竪穴住居跡

調査区東側のトレンチ内で確認したものである。南西コーナー部分のみを確認した。規模は不明である。遺物は平安時代の坏（土師器・須恵器）・長胴甕の破片、弥生時代後期の櫛描波状文の施文された破片などが出土した。



第１図　調査位置図(S=1／2500)

遺構配置図(S=1／2500)



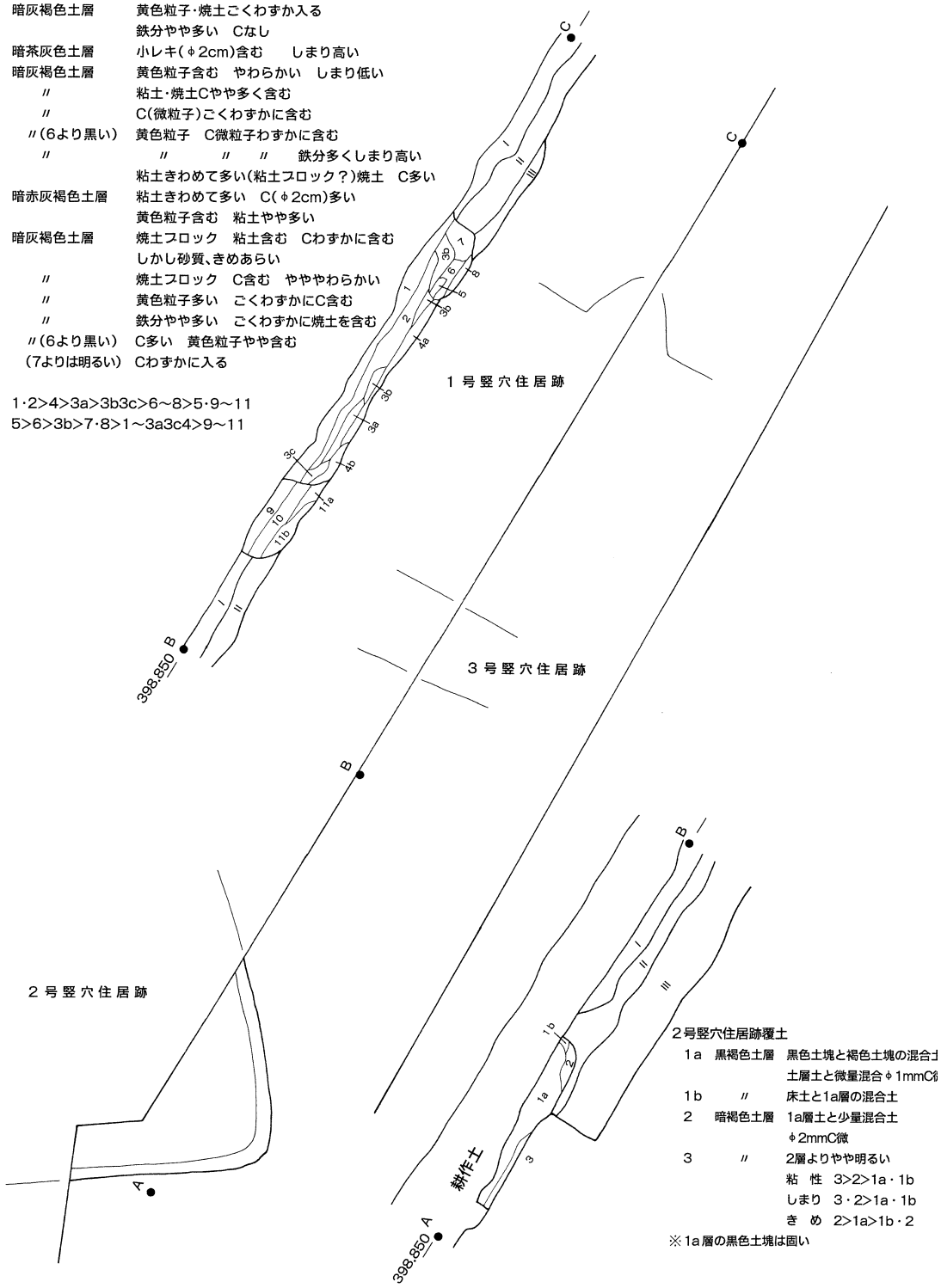
① 下木戸第２遺跡
② 立石遺跡
③ 前田遺跡
④ 中田小学校遺跡
⑤ 金山遺跡
⑥ 宮ノ前第２遺跡
⑦ 宮ノ前遺跡
⑧ 宮ノ前第５遺跡
⑨ 宮ノ前第３遺跡

第２図　下木戸第２遺跡と周辺の遺跡

1・3号竪穴住居跡覆土

Ⅰ	暗灰褐色土層	鉄分やや多い　しまり低め
Ⅱ	〃	〃　少ない　〃　やや高め
Ⅲ	茶灰色土層(地山)	〃　多い　〃　きわめて高い
1	暗灰褐色土層	黄色粒子・焼土ごくわずか入る 鉄分やや多い　Cなし
2	暗茶灰色土層	小レキ(φ2cm)含む　しまり高い
3a	暗灰褐色土層	黄色粒子含む　やわらかい　しまり低い
3b	〃	粘土・焼土Cやや多く含む
3c	〃	C(微粒子)ごくわずかに含む
4a	〃(6より黒い)	黄色粒子　C微粒子わずかに含む
4b	〃	〃　〃　〃　鉄分多くしまり高い
5		粘土きわめて多い(粘土ブロック？)焼土　C多い
6	暗赤灰褐色土層	粘土きわめて多い　C(φ2cm)多い 黄色粒子含む　粘土やや多い
7	暗灰褐色土層	焼土ブロック　粘土含む　Cわずかに含む しかし砂質、きめあらい
8	〃	焼土ブロック　C含む　ややわらかい
9	〃	黄色粒子多い　ごくわずかにC含む
10	〃	鉄分やや多い　ごくわずかに焼土を含む
11a	〃(6より黒い)	C多い　黄色粒子やや含む
11b	(7よりは明るい)	Cわずかに入る

きめ　1・2>4>3a>3b3c>6～8>5・9～11
粘性　5>6>3b>7・8>1～3a3c4>9～11

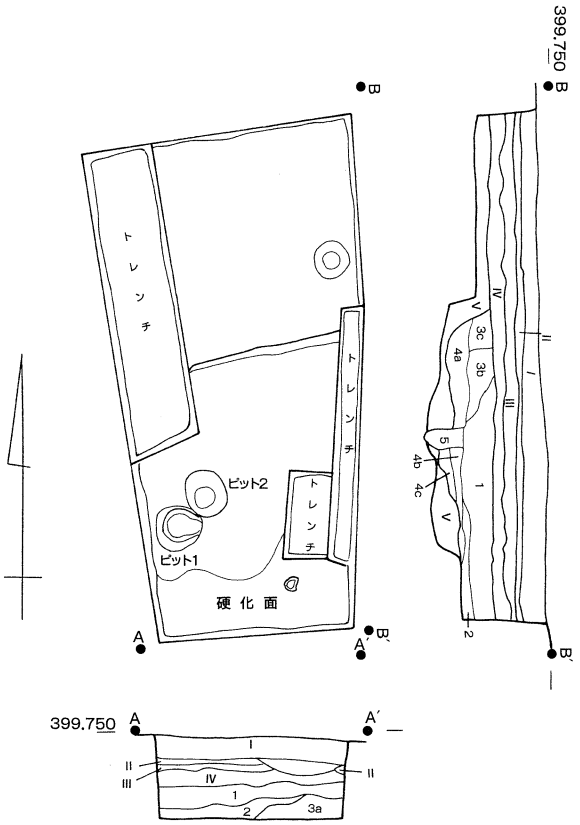


2号竪穴住居跡覆土

1a	黒褐色土層	黒色土塊と褐色土塊の混合土 土層土と微量混合φ1mmC微
1b	〃	床土と1a層の混合土
2	暗褐色土層	1a層土と少量混合土 φ2mmC微
3	〃	2層よりやや明るい

粘　性　3>2>1a・1b
しまり　3・2>1a・1b
き　め　2>1a>1b・2
※1a層の黒色土塊は固い

第３図　1・2・3号竪穴住居跡平・断面図(S=1／80)

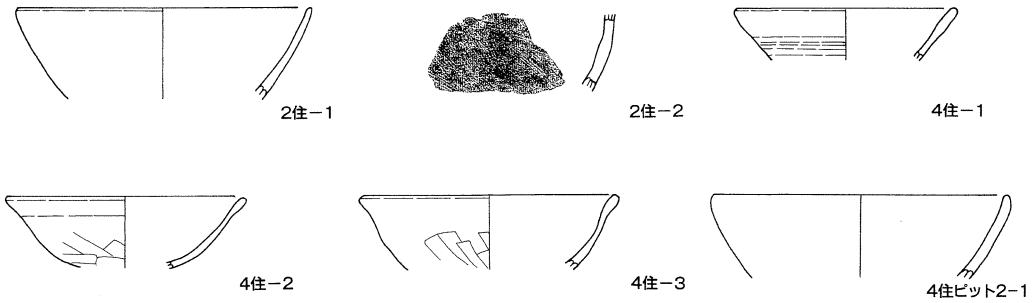


I　灰色粘土層
II　〃　（鉄分多量に含む）
III　灰褐色土層
IV　灰黒褐色土層
V　暗褐色土層

1　暗黒灰褐色土　V層土を微量含む
　　φ1㎜FR・C微量含む
2　暗褐色土　V層土をやや多く含む
3a　暗褐色土　V層土を主体とするがキメが粗い
3b　〃　〃　（3aより暗い）
3c　〃　〃　（3bより暗い）
4a　暗褐色土　3層に類似するがしまり強い
4b　暗黒褐色土
4c　〃　4bよりやや暗い
5　暗黒褐色土　V層土を少なく含む

粘性　3a～3c・4a～4c＞2＞5＞1
しまり　4a～4c＞3c＞3a・3b・2＞1・5
きめ　1・2・5＞3a＞3b・3c＞4a～4c

第４図　４号竪穴住居跡平・断面図（S=1／80）



第５図　２・４号竪穴住居跡出土遺物（S=1／4）

３号竪穴住居跡

１号竪穴住居跡同様に調査区東側断面により確認したものである。１号竪穴住居跡と重複し、１号住よりも古い住居である。規模等は不明である。遺物は出土していない。

4号竪穴住居跡

調査区西側で確認したものである。北側壁の一部、硬化面および２基のピットを確認した。ピット１の底面には平坦な礫があり、礎石とした可能性がある。遺物は、平安時代の坏・長胴甕の破片などが出土した。

出土遺物観察表

図版No.	部位	種類	器種	法量(口径・底径・器高)cm	胎　土	色　調（内・外）	調　整	出土層位	残存率
2住−1	口縁	土師器	坏	7.8　＿　＿	赤・白・黒色粒子	橙色（内外）	内外横ナデ	覆土	口縁 1/8
2住−2	胴部	土師器	甕	＿　＿　＿	白・黒色粒子	褐灰色・灰黄褐色	内ミガキ 外ハケ目	覆土	胴部破片
4住−1	口縁	土師器	坏	6.7　＿　＿	赤・白・黒色粒子	明赤褐色（内外）	内ナデ外ナデ（胴下半〜底へラケズリ）	覆土	口縁 1/8
4住−2	口縁〜底部	土師器	坏	6.2　2.7　4.7	赤・白・黒色粒子	にぶい橙色（内外）	内ナデ外ナデ（胴下半〜底へラケズリ）	覆土	口縁 1/4
4住−3	口縁	土師器	坏	7.8　＿　＿	金色雲母、白・黒色粒子	暗赤褐色（内外）	内外ナデ 赤彩	覆土	口縁 1/8
4住ピット2−1	口縁	土師器	坏	5.7　＿　＿	赤・白・黒色粒子	橙色（内外）	内外ナデ	覆土	口縁 1/8

ま　と　め

狭小な調査面積に対して４軒の竪穴住居跡を確認したことから、下木戸第2遺跡は平安時代において一集落を形成していたことを窺い知ることができた。また、調査地南側も別件で埋蔵文化財有無確認調査をおこなったが、さらに遺跡が広範囲におよぶことを確認した。なお、別件の開発予定地内はすべて盛土保存を行うという内容で梨北農業協同組合と協定を平成11年５月に締結している。

本報告書は、限られた時間の中で作成したものであり、出土遺構・遺物を資料化したに過ぎないが、今後の調査・研究に活用されれば望外の喜びである。

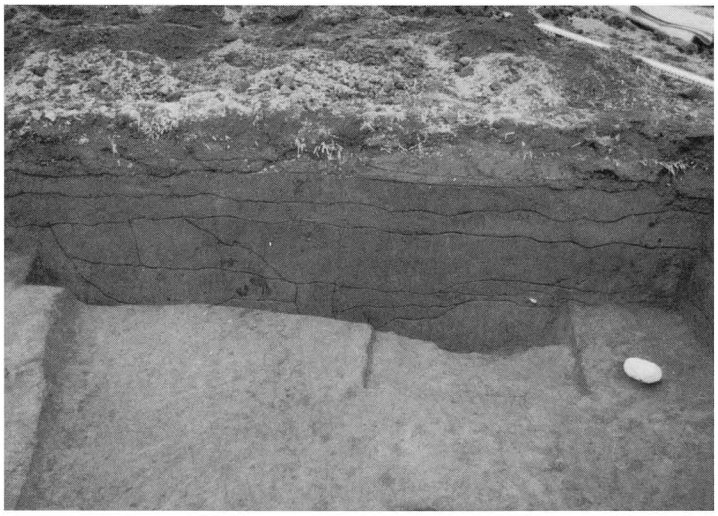
写　真　図　版

図版 1

調査風景

茅ヶ岳を望む

２号竪穴住居跡全景
（南から）



４号竪穴住居跡土層断面
（西から）

４号竪穴住居跡全景
（南西から）

下木戸第2遺跡

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　平成11（1999）年 9 月30日

発　行　韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

〒407-8501
山梨県韮崎市水神1－3－1
TEL 0551-22-1111(内250)

印　刷　有限会社 タクト/印刷・デザイン